

クリスマスカラーに彩られた横浜山手西洋館巡り

実施日：2022年12月17日

コース：石川町駅→ブラフ18番館→外交官の家→（庭園・WC）→横浜山手テニス発祥記念館→旧山手68番館→ベーリック・ホール→エリスマン邸→山手234番館→元町公園(WC)→横浜市イギリス館→山手111番館→港の見える丘公園（解散・12時頃）……元町・中華街駅

| | 場所 | 由来・史跡 |
|---|--------------|---|
| 1 | ブラフ18番館 | 戦後、天主公教横浜地区の所有となり、カトリック山手教会の司祭館として使用。移築復原して平成5年（1993）から公開された。 |
| 2 | 外交官の家 | ニューヨーク総領事などを務めた明治政府の外交官内田定槌の邸宅として、明治43年（1910）に東京渋谷の南平台に建てられた。 |
| 3 | 横浜山手テニス発祥記念館 | 明治3年（1870）に横浜居留外国人の手によって造られた国内初の洋式公園・山手公園は、日本で初めてテニスがプレーされた地。 |
| 4 | 旧山手68番館 | 昭和9年（1934）に建てられた外国人向けの貸家で、昭和61年（1986）に山手公園に移築された。現在は山手公園管理センター。【外部見学】 |
| 5 | ベーリック・ホール | イギリス人貿易商B.R.ベーリックの邸宅として、昭和5年（1930）に建築。その後、セント・ジョセフ・インターナショナル・スクールの寄宿舎に。 |
| 6 | エリスマン邸 | 大正15年（1926）、山手町127番地に建てられた生糸貿易商社シーベルヘグナー商会で活躍したスイス生まれのフリッツ・エリスマンの邸宅。 |
| 7 | 山手234番館 | 関東大震災の復興事業の一環で、横浜を離れた外国人に戻ってもらうための外国人向け共同住宅として昭和2年（1927）頃に建設された。 |
| 8 | 横浜市イギリス館 | 昭和12年（1937）に、上海の大英工部総署の設計により英国総領事公邸として、現在地に建てられた。 |
| 9 | 山手111番館 | 大正15年（1926）にアメリカ人ラフィンの住宅として建設されたスパニッシュスタイルの洋館。設計者は、ベーリック・ホールと同じモーガン。 |

* コースは道幅や歩道が狭いので、横に広がらないようにご協力をお願いします。

〈次回案内〉 瀬谷八福神（半日コース約6km、一日コース約9km）

日時：2023年1月7日（土）相鉄線 瀬谷駅北口広場 集合 9時～15分受付

スタッフ 募 集 中！

問い合わせ先：せや・ガイドの会 竹見（☎090-3900-6469）まで

ホームページ「せや・ガイドの会」で [検索]

